



# ぶどうのささやき

28号

2019年  
7月15日発行

地域経済の活性化を目指し、社会貢献をしています。

## 街の声を目指して

平成6年12月3日の開局からずっと、FMブルー湘南のパーソナリティーとしてマイクの前に座り、大滝町の三笠ビル商店街のサテライトスタジオで、外から手を振ってくださる方に励まされながらお喋りしています。この寄稿を機に、25年を振り返ってみたいと思います。

ラジオ好きの父の「横須賀にもラジオ局が出来るからオーディションを受けると良いよ」と言う言葉に背中を押され、全くの未経験であるにも関わらず応募したのが20代最後の年。後日合格の連絡をもらうも、実感が無かったのを覚えています。その時の私は、ボーカルコーチとして生徒さんをたくさん抱えていて「先生」と呼ばれる立場でしたので、知らない世界に初心者として身を置くことにはとても戸惑いがありました。同じ声を使うお仕事なのに、話す世界と歌の世界のあまりの違いに混乱もしました。

そんな中で、アナウンスの指導をしてくださった元東京エフエムアナウンサー宮澤さんの「音楽をやっている人は音程とリズムがいいなあ」という言葉に励まされました。ニュースは感情を込めるのではなく淡々と読むものではあるけれど、その内容によって語尾の消し方や、出だしの高さを変えるのが大切と習いました。その時、自分の経験が放送の世界にも生きると感じることができました。また、開局から今も続くインタビュー番組「遊びに来ませんかスタジオへ」を聞いてくださった方から「インタビューが上手です。横須賀のタモリさんになってください」とメッセージをいただいたことで、これで良かったんだと自信に繋がりました。

クラスターという言葉を知ったのも、この番組ででした。地域経済の活性化を目指し、社会貢献活動をされている産業クラスター研究会の木下理事長をはじめ会員の方々が番組にご出演くださり、お話を伺うチャンスが何

FMブルー湘南パーソナリティー  
シンガーソングライター

灯織（ヒオリ）



度もあり、皆さんの熱気に頼もしさを感じました。

25年間で特に印象に残る出来事は、東日本大震災です。まるで自分の故郷を奪われたような悲しみとショックと、ラジオパーソナリティーとしてどうしたらいいのかと考えた出来事でした。特に、情報難民となり得るシニアの方にもどうか情報を届けたいとスタッフで力を合わせて頑張ったことは、局の団結力にも繋がったと思っています。

私自身も、少しでも何かしたいという気持ちから、仲間に呼びかけ4トントラック満載の支援物資を2回南三陸に運び、その後も継続して主に音楽家を目指す学生の支援を今も続けていています。

コミュニティーFM局の役割は、時代とともに確実に変わってきました。今はインターネットで聴取することがポピュラーとなり、またSNSの普及も手伝って情報の拡散力が高まりました。だからこそ、気持ちを引き締めて伝えなくてはならないと思い知らされます。ただ、一番大切なのは、私たちは常に街の声であり、街の顔であることでしょうか？ サテライトスタジオ越しに見える景色も変化しましたが、それでも変わらずに笑顔で手を振ってくださると、本当に嬉しいです。

ラジオパーソナリティー以外に、音楽活動もしています。産業クラスター研究会の皆さんのパワーを見習って、これからも自分らしい表現者でありたいです。

## クラスターとは・・・

クラスターとは、ぶどうの房や羊の群れを意味します。米国の経済学者マイケル・ポーターが著書『経済戦略』の中で異業種間のネットワークを構成している状況を意味するものとして『産業クラスター』という言葉を使っています。私たちは地域経済活性化への貢献を目指して、2003年8月に産業クラスター研究会を設立しました。

## 2019年度活動方針について

本年2月8日、15周年記念式典を開催することができ、平成16年1月に認証され法人となり、以来約5年毎に支援体制を構築し運営の安定化を推進してきました。

このことは、当会会員の皆様並びに行政・大学・関係団体のご支援・ご協力の賜物と厚く御礼申し上げます。

さて、世の中は平成から令和へと元号が変わり、新時代を迎えました。NPO法人として如何に対処するか、当会も今後の5年間で難しい課題に直面することになります。会員の高齢化問題と会員の増員など、また認定NPO法人として、公益性の深掘りや新しい視点で支援活動の見直しと拡大を心掛けていく必要があります。

直近では、行政・大学・産業界等で活躍された技術系シニアの経験・知識・人脈を活用し、法人会員と関係団体や一般市民を対象に、地道な支援活動（市民サポートセンターで開催の「いまさら相談室」や追浜工業会の「なんでも相談室」）を継続し、県印刷工業組合においても各種支援活動などを行っております。

上記課題に取り組むため、本年度の活動は以下を推進します。

### (1) 支援企業の拡充と活動地域の拡大

横須賀・三浦と横浜市における活動地域から、県中央・湘南地区に活動を拡大し、地域による中小企業の職種・製造品目の多様化に対応できる支援活動の質向上を図ります。

理事長 木下 武



### (2) 小中学校へのエコ教育・理科教育の推進

横浜市金沢区で始まった小学校児童へのエコ教育を横須賀市でも実施するとともに理科教育も両市で実施し、児童や生徒が理科系学科にも興味を持つ活動を更に展開します。

### (3) 認定NPOの継続

一般市民への各種支援など公益事業への支援活動を重視し、認定要件を満たす活動を鋭意進めていきます。

### (4) 行政、大学、NPO などからの業務委託契約の獲得と拡大

当会が横浜市指定管理者評価機関として認定されたことによる第三者評価業務の実施と地域の大学や公官庁の委託業務の拡大に努めます。

### (5) PR活動の拡大

ホームページ、会報誌、人脈を通じて当会活動をPRしているが更に充実したPR活動を行い地域住民の理解を得て、法人並びに個人会員の参加拡充を図ります。

### (6) 他団体との関係拡大

商工会議所や他のNPO法人との連携を図り相互理解・協力をして事業推進を図るとともに囲碁・将棋、ゴルフ、音楽（コーラス、CD鑑賞）、旅行などの趣味を生かした当会内部の交流・親睦・情報交換を図り、シニア参加を促進します。

### 【歳時記】海辺の思い出

私は、海のない農村出身、都会に出てきて五十年余になります。農村では、この寄稿を書いている五月の末頃は、冬の雪が解け田んぼでは田植えが終わり、畑ではアスパラの収穫やさまざまな野菜の植え付けが始まり、多忙を極める日々でした。

海のないところで育った者は、怖いながらも海に憧れます。都会に出てきて、たまたま釣り好きで、魚屋に勤めている友人ができたことが幸いしていたのかもしれない。多分そうでしょう。手取り足取りで教えてもらったことを思い出します。

五月末の頃だと、手作り仕掛けでのネカブ採りやアサリ採りが終わり、その後ニシガイ採り、手作り仕掛けのタコ釣りがあります。また、メジナ釣りで、アオサを小さく三角に切り、エサにして釣るよう細かく教えてもらいました。

ただ、注意することは、農村での山の幸において間違えて採取してしまうこともあり、気をつけなければならぬのと同様に、海の幸にも気をつけなければならぬことが多々あることを教えてもらったことは幸運でした。

例えば、エイが釣れたとき尾っぽの針に注意すると、太刀魚の歯、カサゴのエラや背ビレ、オニオコセ等には触れない、各種の魚のエラ先や背ビレにも要注意とか、サバは鮮度の落ちるのが早く、冷蔵庫の中に入れておいても安心できない。目の色が赤くなり異臭がしてきたらすぐに捨てるようにすることなどです。微に入り細に入り教えてもらいました。

大潮の時、そっと岩陰を覗いてみると、そこにはそれぞれ多様な海藻や生物がおります。農村の田畑では肥料をやらなければ野菜等は育たないが、海辺では何もしくとも育ち、むしろ田畑より肥沃ではないかと思ったりしました。

その友人も、今では高齢で足腰が弱り、海辺に出かける機会が少なくなると嘆いていました。私自身も年に数回散歩に出かける程度になってしまいました。

行楽シーズンは真つ盛り。しかし、毎年事故が絶えない。海でも山でも注意事項を守り怪我のないように大いに楽しんでほしいと思います。(明)



## 世界 20% のシェアを誇るワイパーブレードのばね

創業後 70 年の歴史を持つ“ばね専門メーカー”で“生きているばねで社会と環境に貢献する”をモットーに、グローバルに展開されている京浜発條株式会社の代表取締役社長 片平修一様のインタビューをもとに紹介します。

### 現状

祖父(片平与惣次)が 60 才の折、弱電関係のばね事業で戦後の経済成長期 1950 年(昭和 25 年)に横浜市神奈川区子安で創業しました。その後自動車関係のばね、家電、家具その他へと事業を拡大し、1962 年に横須賀市浦郷に本社・工場を移転しました。1982 年には、ビデオ関係のばね事業拡大のため、群馬県渋川市に群馬製作所及び北関東営業所を開設しました。

ばねの形状や材質は様々で、京浜発條(株)が得意として設計製造している“ばね”は、線ばね、薄板ばね、ぜんまいばね、形状記憶合金素子、その他プレス・フォーミング品、ワイヤー及びロッド加工品等です。用途としては自動車関係・エレクトロニクス・家電・家具その他広範囲に及びます。特に自動車部品のワイパーブレード



のばねでは、世界の 20% 近くのシェアを誇っています。

多品種少量生産、規格も様々で、品質管理・保証の高いレベルが要求される業界です。

ワイパーブレード用のばねだけでも品番で 3000 にも及びます。ばねは材料に左右される部分が多い部品で、材料ごとに微妙な調整が必要です。工程での造り込みが重要で、長い間の試行錯誤の実績と経験、ノウハウの蓄積が強み、競争力の源にもなっています。ばね製造機器は最新機器を導入し、機械化できる部分を増やしているが、“匠の技”が大切と考えています。

### 積極的な海外進出

先代の社長(片平總太)は海外事業に関心が高く、年に数回はアメリカ・ヨーロッパなどの経済状況を視察し、1996 年に米国シカゴに、工場を設立しました。計画通りには進まない点が多々あり、撤退しましたが、QS9000 等の認証取得を通じ、米国流の品質管理を学びました。

その後 2008 年に、マレーシアのペナンに KHC SPRING



京浜発條株式会社 代表取締役社長 片平 修一

(本社) 〒237-0062 横須賀市浦郷町 5-2931-29

(電話) 046-865-8391

(FAX) 046-866-3019

ホームページ: <https://www.keihin-hatsujo.jp>

CORPORATION (M) SDN.BHD. を設立、工場は 2009 年 8 月より垂直立ち上げに近い形で順調に稼働開始しました。ワイパーのばねの製造を行っているが、50 人規模の工場で、生産量は本社・工場と同程度になっています。東南アジアでの生産拠点として、生産・業績とも順調に推移しています。

次に、昨年 2018 年 12 月に、メキシコのサンルイスポトシ市(トランプ大統領の影響でフォードが進出を中止した地域)に工場建設を始めました。日本では自動車の需要は縮小しているが、世界的には成長が期待され、自動車のばねのサプライヤーとして、稼働準備中です。稼働が開始されると、グローバルな三極体制となり、震災などに対して、BCP・リスク管理の面からも有利になると考えています。また海外では異業種との連携で協業し、グローバル競争の中での生き残り戦略を考えています。

### 今後の方針「“人をつくる会社”を目指す」

グローバル社会の中では、技術進歩や変化のスピードが速いので、これからの時代、従業員一人一人が能力を伸ばし、感性を研ぎ澄ますことが大切。一人一人が現場力を生かし、管理力を高め、信頼される会社にしていきます。そして従業員の努力に報える企業にして行きたい。事業面では、あらゆる顧客のニーズに応えるため、設計と製造力(匠の技術)を高め、恒常的に品質と環境問題に取り組み、CSR を果たし持続性ある企業を目指したい。

(環境事業部会 樋谷 祐一 記)

## 歴史散歩

### 包丁の歴史をたどる

個人会員 柳本 茂

私は昨年、包丁砥ぎ屋を開店した包丁砥ぎ師です。皆様が普段お使いの包丁の歴史をたどると興味深いことが沢山ありましたので、今回その一部をご紹介しますと思います。

今から約20万年前、二足で歩き道具が使える「猿人」は、「原人」「旧人類」を経て現代人と同じグループの「新人類」に進化しました。その後日本では、島根県出雲市の砂原遺跡に約12万年前のヒトの足跡がみられ、旧石器時代の幕が開いたのでした。

後期旧石器時代早期の約4万年前、栃木県や長野県では黒曜石の採掘が行われ、やじりや尖頭器など多くに使われました。伊豆神津島からも海を関東方面に渡って来ました。黒曜石の産地は日本全国にわたります。ガラス質である黒曜石は、打ち欠かれるとその先端角度は約23度、硬くて鋭利な刃となります。現代の包丁の刃の角度と同じです。既に切れ味鋭い石包丁を使っていたのです(写真1)。



写真1 黒曜石尖頭器 (明治大学博物館蔵)  
北海道白滝服部台遺跡 (2万~1万2千年前)

ところで、横須賀市の北部、日産自動車工場脇の「夏島」には今から9,500年前の縄文早期・初期に属する貝塚があるのをご存知ですか。底が尖った煮炊き用の土器は特殊な形で「夏島式土器」と称され、関東地方に広く分布していました。この貝塚からは叩いたり切ったりする「礫石斧(れきせきふ)」が出土しました。マグロの骨も出土され、東京湾の外で漁をしていたと予想されました。夏島貝塚は戦後、日本最古の縄文文化遺跡として認められ、発掘を行った明治大学の博物館にその遺物が展示されています。

弥生時代(紀元前3世紀~後3世紀)には大陸・朝

鮮半島を経て青銅器とともに鉄器文化が日本に伝わりました。岐阜県関市西部の塚原古墳からは鍛造(たんぞう)製小刀が発掘され、日本最古の6世紀ごろのものとして判定されました。「関の孫六」など、包丁で著名な土地は鉄器の歴史と関係が深かったのです。

また奈良県正倉院には、奈良時代の「庖丁」が現存する日本最古の遺品として保存されています。その姿は写真2の様な直刀です。

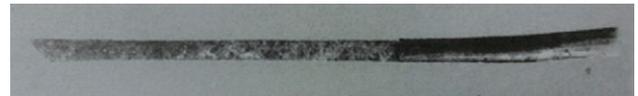


写真2 日本最古の庖丁 (奈良県正倉院蔵)

さて「ほうちょう」という名の由来をひも解くと、古代中国の書物『莊子』に、「料理人の庖丁(ほうてい)が魏の恵王の前で牛1頭を素早く解体したところ、恵王はその腕前に深く感銘し、以後彼が使用した料理刀を「庖丁」と称した」との逸話があり、これが日本語で「ほうちょう」になったとのこと。

江戸時代初期に包丁は、直刀型から幅広でアゴの付いた「菜切り包丁」や、魚をさばく「出刃包丁」、魚の身をそぐ「刺身包丁」など、ほぼ現代の「和包丁」として確立されました。これらの和包丁は「片刃」と言って片側にしか刃が有りません。材質は日本伝統の鋼(はがね)が使われ、日本刀と同じ製造工程を経るので切れ味が良く寿命が長いのが特徴です。

明治になって牛肉を食べる文化と一緒に入って来たのが「洋包丁」です。「牛刀」とも言います。この牛刀は「両刃」で和包丁にみられる「しのぎ」はなく刃先にかけてのっぺりしています。肉・魚・野菜と幅広く使えます。

昭和30年代に和包丁と洋包丁との良いとこ取りをした「三徳包丁」が生まれました。鋼を使った両刃の万能包丁ですが、鋼は錆びやすいので今では錆びないステンレス包丁・粉末合金包丁が好まれています。伝統の技術を引き継いだ日本の包丁はとても良く切れると評判で、世界中に輸出されています。



## Web サイトの自主運営の手引き その3 ～運用管理編～

事業活動紹介

企業支援事業部会 新井 全勝

会報誌 25 号、26 号に連載した「Web サイトの自主運営の手引き」の続きです。参考にしてください。

### Web サイトの運用管理とは

主にサーバコンピュータ上で稼動し、Web サービスを提供しているシステムが、想定外の要因によって停止することなくユーザに対して Web 文書の作成・編集やアクセスのサービスを提供できるよう Web サイト環境を維持管理することです。

### 運用管理の形態

コストパフォーマンスの高い共用レンタルサーバを利用し、サーバ上で Web 文書の作成・編集を行える WordPress などの CMS (コンテンツ管理システム) ツールを利用している環境においては、次のような 3 レベルの運用管理形態で運用されていることを理解しておいてください。

#### (1) サーバシステムレベルの運用管理

サーバコンピュータの保守、サーバ OS、サーバソフトのバージョンアップ、Web 文書等のバックアップ/復元など。

#### (2) サーバソフトが提供する Web サーバレベルの運用管理

ユーザ管理、セキュリティ管理 (ファイルパーミッション設定など)、Web 文書ファイル管理、バックアップ/復元、データベース管理、CMS ツールのインストールなど。

#### (3) CMS ツールが提供する CMS レベルの運用管理

ユーザ管理、Web 文書管理 (履歴管理、マルチメディア管理、ページ構成管理など)、バージョン管理、バックアップ/復元、セキュリティ管理 (スパム対策、サイト改ざん検出など)、スリム化対策など。

(1) はレンタルサーバを提供するレンタル会社のシステム管理者が実施し、(2)、(3) は Web サイトの管理者が実施するものです。(2)、(3) の機能は、サーバ OS、サーバソフト、CMS ツールにより異なることがあるのでよく確認してください。

### 基本的な運用管理機能

ここでは、基本的な運用管理機能について説明します。

#### (1) CMS ツールなどのバージョンアップ

バージョンアップは、CMS ツールの機能改善、性能向

上、セキュリティ対策、設計・製造不良対策などの観点から基本的な作業であり、①こまめに実施、②関連するソフトとの整合性配慮、③実施後の Web 文書の目視確認、などに留意してください。

#### (2) Web 文書のバックアップ/復元

バックアップは、①定期的な実施とともにバージョンアップ前後の実施、② 3-2-1 ルール (3 世代以上のバックアップ保管、2 種類以上の媒体に保管、1 つは遠隔地に保管)の実施、③サイト規模が大きくなるとバックアップ時にタイムアウトが発生する可能性が高くなるので多様なバックアップ方式をもつツールを選択すること、④復元作業の事前確認、などに留意してください。

#### (3) セキュリティ管理

インターネットの世界では、情報を瞬時に取得できる反面、悪意のあるユーザの攻撃を受けやすく、また拡散しているコンピュータウイルスに感染しやすい環境にあり、セキュリティ管理が重要になってきています。IPA (情報処理推進機構) の情報セキュリティ指針 5 か条や NISC (内閣サイバーセキュリティセンター) の情報セキュリティ対策 9 か条などを参考にして対応してください。これには Web サイトの管理者だけでなく、全員参加が求められます。

#### (4) Web サイトのスリム化対策

長く運用していると、ディスク上に不要なファイルや更新履歴が蓄積されます。不要なファイルの点検と削除、Web 文書の更新履歴の削減や履歴数の適正化設定などを行うことが必要になります。

### 自主運営を実施するために

次のような方針で自主運営することを推奨します。

- (1) バージョンアップやバックアップ/復元は簡便で操作性のよいものを選択すること。
- (2) 復元など失敗した時の被害の大きいものはテスト用サイトを設けて確認を行う周到性が重要。
- (3) エンドユーザに迷惑をかけない時間帯に実施すること。
- (4) 確実な作業のために運用管理マニュアルを作成しておくこと。

前述の基本的な運用管理機能を自主運営すると、効率的で安全な運営の可能性が高くなります。ただし、困ったときには専門家にまず相談すること。当会に声を掛けてください。

## トピックス

## 15周年記念式典を開催しました

15周年を記念して、式典を平成31年2月8日(金)にメルキュールホテル横須賀で開催しました。式典は特別記念講演会と懇親会の2部構成です。

## I部 特別記念講演会

木下武理事長の挨拶に続き、神奈川県立産業技術総合研究所 馬来義弘理事長様の来賓ご挨拶をいただき、PHP総研 主席研究員、立教大学院 特任教授、認定NPO法人アジア教育友好協会 理事の亀井善太郎先生の以下に記載の特別記念講演が行われました。

80名のご出席で、皆様より亀井善太郎先生のご講演に深く感銘され、これからの経営戦略に生かしたいと大好評でした。

## 【講演会講演要旨】

演題「企業は社会の公器」

～これからの社会をつくる企業経営とは～

「企業は社会の公器」は松下幸之助の言葉です。企業は、社会が求める仕事を担い、次の時代に相応しい社会そのも



のをつくっていく役割がある。さらには、企業が必要とする資産はもちろん、人材も社会からの借りもので預かりものなのだから、人材は育てて返さなければならないという意志を「公器」という言葉に込めました。そして、そのためにはあらゆる職階において、本来の「経営」が機能しなければなりません。過去の言葉ですが、変化に直面した現代においてこそ、あらためて受けとめ直すべき言葉です。

そこで、企業の持続的発展のためにも社会との向き合い方は重要です。様々な変化を遂げる社会にしっかり対応できなければ、チャンスを捉えることもできませんし、リスクの回避・縮小もできません。CSR(企業の社会的責任)は経営そのものと考えべきでしょう。

次の時代の社会を見据えた企業経営とは何か、そうした企業によって作られていく社会とはどのようなものか。様々な企業の事例からのご講演でした。

## II部 懇親会

式典に引き続いて隣接の大広間で懇親会が行われました。今回招聘したピアニスト、石渡玲玲・村井美玲姉妹の演奏をバックに、(株)ハイ測器本田社長による乾杯の後、横須賀市経済部 上之段功部長様をはじめとするご来賓挨拶やご祝辞をいただき、和やかな歓談のひと時が始まりました。

そして宴たけなわの頃、アトラクションの部が始まりました。今回15周年式典の目玉企画は神奈川県印刷工業組合 萩原事務局長(実はオペラの企画・演出・出演も手掛けられるキャリア20年の芸術家)のバリトンソロ。オペラ「フィガロの結婚」から「バルトロのアリア」を、広い宴会場の壁も揺るがさんほどの声量で熱唱されました。歌に合わせて、合唱団「せみ」の佐々木順子マネージャーも加わった寸劇も演じられ、会場からは「これでもアマチュア?」と称賛の声がしきりでした。



また、この企画の露払い役を勤めたのが海外関連事業部会の立林・岩岡のご二人、懐かしのフォークソング「500マイルも離れて」を披露、特に立林氏の見事なギターとハモりに、会場では一緒に口ずさまれる方々もおおいでした。

アトラクションの最後は木下理事長も参加している男声合唱団「せみ」のメンバー8人に女性陣も加わった迫力満点の合唱で、定番の「いざ起て戦士(いくさびと)よ」をはじめ、力強い歌声をご披露いただきました。最後は会場の皆様とご一緒に「箱根八里」を大熱唱。興奮冷めやらぬパーティーの締めくくりは(有)湘南安全硝子濱田会長による珍しい「五本締め」で中締めとなり、ご参加の皆様方は華やかな雰囲気と和気あいあいの中、ピアノのBGMに乗って三々五々会場を後にされたのでした。

(副理事長 阿部昭彦・個人会員 岩岡弘人)



## トピックス

## 2018 年度神奈川県中小企業・小規模企業活性化推進月間

## ～ 対象セミナーの開催 ～

「見せよう！中小企業・小規模企業の力」のテーマで、2019 年 2 月 27 日に、横須賀市総合福祉会館において、主題のセミナーを開催しました。

## 講演内容

下記の 3 講演が実施されましたが、緑川氏の講演を紹介します。

1. 「三浦半島地区の活性化に向けた取組み」  
横須賀三浦地域県政総合センター  
所長 鈴木宣男氏
2. 「ビジョンを掲げろ、現実となる」  
(株) ミナロ代表取締役 緑川賢司氏
3. 「神奈川県の中小企業に向けた施策について」  
神奈川県中小企業支援課主幹 中川良一氏

## 緑川社長への講演依頼について

中小企業は日本の企業の 99% を占めており、この存続なくして日本の経済は成り立たない。中小企業が減少し続けている危機的な状況を打開するための緑川氏の実行力は桁外れで、このような方がもっともっと増えて欲しいため、講演をお願いしました。

## (株) ミナロの起業

2002 年、勤務先企業が廃業となり、仲間とともに (株) ミナロを創立。経営・営業経験ゼロ、どうやって存続し

ていくか不安の中で、「目立つしかない。連携・連帯・情報発信を基本に B to C への取組みに注力」を理念としてスタート。16 年を経てユーザー数は 1000 倍に達し、「いける」と実感しているといわれる。自分の苦しかった時期に懸命に這い上がろうとして起業し、会社を如何に存続させるかという戦いに真っ直ぐ向かう心意気を熱く語られた。



## 中小製造業生き残りへの挑戦

緑川社長の視野は広い。次の戦いは中小製造業生き残りへの熱い戦いである。全日本製造業コマ大戦を開催し、続いて世界大会も開催。目的は日本の製造業に活気を与えること。成果は、①製造業者のモチベーション向上、②学生の製造業への就職、③参加者の情報発信力の増強、④日本国内及び世界への技術アピール、⑤ B to C の販路確立、⑥市場の創造と拡大。中小企業白書掲載、内閣総理大臣表彰を授与し PR 効果は大いにあり、学生の就職も増えてきた。

信念は、「ビジョンを掲げていれば必ずや実現する (From Vision to Reality)」だと熱く語られた。

(顧問 鈴木 清文)

## 事務局からのお知らせ

- ① 2 月 8 日、15 周年記念行事としてメルキュールホテル横須賀にて講演会と懇親会を行いました。講演会参加者 約 80 名、懇親会参加者 約 70 名となりお陰さまで盛大に、滞りなく終えることができました。皆さまのご支援とご協力に改めて感謝申し上げます。
- ② 2 月 26 日、横須賀市立城北小学校にて「理科教室」を開催しました。
- ③ 2 月 27 日、「神奈川県中小企業・小規模企業活性化推進月間対象セミナー」を開催しました。
- ④ 3 月 27 日、平成 30 年度第 3 回理事会を開催し 2019 年度の活動予算案の承認を得ました。
- ⑤ 4 月 22 日～ 23 日、有志にて川根温泉にて研修旅行。
- ⑥ 4 月 26 日、2019 年度第 1 回理事会を開催し、平成 30 年度の決算関係及び役員改選案について承認されました。
- ⑦ 5 月 16 日、2019 年度通常総会を開催し滞りなく終了。総会の後 同所にて会員集会（懇親会）を開催、会員相互の交流を深めました。
- ⑧ 新入会員の紹介 個人会員 高木 晴幸（藤沢市）

(事務局 佐々木 興吉)

## トピックス

## 2019年度通常総会開催

去る5月16日(木)産業交流プラザ、特別会議室にて2019年度の通常総会が行われました。審議事項は1号議案として平成30年度活動計算書、財務諸表など平成30年度の事業報告及び決算の報告、2号議案として2019年度活動予算など2019年度事業計画及び予算の提案と説明、3号議案として改選役員の提案と説明が行われ、いずれも満場一致で承認されました。総会は活動の内容や業績を分かり易くするため写真やグラフを多用し、また、各部長や関係者が活動の内容や方針を一言ずつ説明するなど全員参加で行われました。

平成30年度の業績としては2月に15周年記念行事を行ったため収支は若干のマイナスとなりましたが、それを除くとほぼ計画通りの結果となりました。また、行事を含む2019年度事業計画も一般市民、中小企業向け自



主セミナーの開催や相談室の常設、よこすか産業まつり出展参加など地域貢献型の活動に力を入れていくことになり、結果として業績目標としては平成30年度並みとなっています。

また、2019年度は役員の改選時期となったため、これを機に役員数の低減と全役員の改選時期を一緒にすることが諮られ、以下の通り新理事として11名、新監事2名の再任と新任の承認がありました。

理事： 木下 武、濱田 徹、富野 養二郎、本田 徹、阿部 昭彦、加藤 幹雄、  
佐々木 興吉、金子 賢一、片平 梯一、廣田 勝彦、槌谷 祐一  
監事： 片岡 祐二、安藤 準一

なお、その後開催の臨時理事会で以下の通り理事長、副理事長が再任されましたので報告します。

理事長： 木下 武  
副理事長： 富野 養二郎、阿部 昭彦、加藤 幹雄

(事務局 佐々木 興吉)

## 羅針盤

本号では、二つの記事を取りあげる。▼まずは、15周年特別記念講演会における亀井善太郎氏(PHP総研主席研究員、立教大学院特任教授)の「企業は社会の公器」と「CSR(企業の社会的貢献を果たす責任)は経営そのものである」とのご講演。なかでも、企業が必要とする大切な資産は人材とするのである。その人材も社会からの借りもので、成果を出し、育てて返さねばならない。このような意志を「公器」という言葉にこめる。筆者の記憶では、世界的な経営学者ピーター・ドラッカーも同じことを述べている。▼次は、改設した「法人会員/支援先企業のページ」の『京浜発條(株)』の記事。創業70年の歴史を持つ「ばね専門メーカー」で、ワイパーのバネでは世界の20%のシェアを誇る優良会社。会社の方針(理念)は「人をつくる」である。「一人ひとりが能力を伸ばし、感性を研ぎ澄まし、全員で力を強くしよう」。皆が自己実現し、現場力と管理力を高め、信頼される会社を目指す。▼企業の「人づくり」は教育することではなく、企業の真の使命は何かを正しく自覚した「経営理念(方針)」を持つことと亀井善太郎氏は説く。これを実践しているのが『京浜発條(株)』である。昔も今もこれからも、企業の持続性ある発展は「人づくり」と言われている。今日の難しい経済社会環境に向けて「人づくり」の大切な羅針盤は『経営理念(方針)』を持つことであると学んだ。(昭)

発行：特定非営利活動法人 産業クラスター研究会

〒239-0847 横須賀市光の丘8番3号 YRPベンチャー棟209号

Tel & Fax: 046-847-6355 E-mail: yrp-cluster@marble.ocn.ne.jp

横浜事務所 〒236-0055 横浜市金沢区片吹69番26号

連絡先: 046-847-6355

E-mail: yrp-cluster@marble.ocn.ne.jp

発行人：木下 武